

うえに、さらに市長が声高におっしゃられております「重粒子線がん治療装置」の導入など、言葉ではない安心感が目の前にあるということが、定住や交流を促進する裏付けになると思っております。

佐藤(孝) 医療について言いますと、山形市には山形大学附属病院や市立病院済生館といった総合病院の数が多く、医療のインフラが非常に充実しております。また、私は医療を核とした「健康医療先進都市」ということを掲げさせていただいております。山形大学にがん治療の世界最先端の治療装置が来るわけですが、これをがん治療のときの安心感だけに限らず、様々な健康・医療関連産業を山形市に集める起爆剤にし、雇用、あるいは市民の皆さんに最新の健康にかかわる環境の提供を目指していきたいと思っております。

司会 環境を整えば安心面はもちろんです。雇用の場も広がっていくなど、本来に期待の高まる部分が大きいですよね。

佐藤(誠) 雇用について言えば、山形大学部附属病院や県立中央病院にも白鷹町出身の看護師が多くいらっしやいます。やはり働く場所があるということが、大きなウエイトを占めているということですね。県都山

形市にそのような環境が備わっているからこそ、白鷹町にも安心して住んでいただけたらと思っております。

山形市と白鷹町それぞれがそれぞれに期待すること

司会 佐藤市長が今後、白鷹町に期待することはどういったところでしょうか。

佐藤(孝) 地方創生と言いますと、地元にあるものをどれだけ伸ばして、磨いて、PRして売るかというところがカギになります。白鷹町の今の路線がまさにそのようなことだと思っております。引き続き力を入れていただいて一緒に元気な山形市・白鷹町とさせていただきたいと思っております。

佐藤(誠) 白鷹町で事業を展開する際、山形市と情報交換をさせていただきながら、互いにプラスになるようなものを積み上げていきたいと思っております。また、住民の皆さんにも喜んでいただけるような地域づくり、まちづくりをやっていくときの大きなバックボーンとして山形市があるわけですので、様々な面で期待させていただきまస్తుともに、勉強させていただきたいと思っております。

司会 白鷹町の皆さんからは、山形

市がどのようになってほしいという声がかかりますか。

佐藤(誠) やはり、「強い山形市」ですね。強くて元気な山形市を町民の皆さんは期待されていると思います。これは産業や医療も含めたすべてのことに対してです。やはり情報発信源の県都ですからね。

佐藤(孝) いろんな言い方があるかと思いますが、やはりストレートに言えばまさに「強い県都」。県都が元気であれば、県全体が元気になると思っております。今後の一番の課題といたしましては、やはり働く場所の問題かと思っております。ここでしっかりと役割を果たせる山形市であるように私も頑張っていきたい

と思っております。

司会 実は私は本籍が白鷹町で、今は山形市に住んでいるため、両市町にはぜひ盛り上がりつつあったらいいと思っております。

佐藤(孝)・佐藤(誠) ありがとうございます。

佐藤(孝) 両市町に縁があるということですので、ぜひ架け橋になっていただきたいと思っております(笑)。

司会 ありがとうございます(笑)。では、本日は佐藤市長と佐藤町長からお話をお伺いしました。両市町の圏域の発展をますます期待させていただきます(笑)。
佐藤(孝)・佐藤(誠) どうもありがとうございました。



(撮影協力) Photo Studio いのせんと 守谷敏彦さん